

みどい生活の楽しみ⑥ - 涼しげな和の世界でちょっぴりロハス -

夏本番のこの季節、どんな些細な涼しさであっても求めてしまう時期ではないでしょうか？エアコンの効いた部屋でカキ氷やアイスクリームを食べて涼んではいませんか？環境の為、健康の為、あまり良くないと思いつつもなかなか止められない生活習慣ですね。そんな人こそ是非今年からは身近な植物で涼しさを感じてみてはいかがでしょう。植物の中でも特に近頃、和の風潮が見直され、和風の雑貨等と共に、コケ玉やミニ盆栽など和風のアイテムがあらゆるところで利用され、人気を集め続けています。



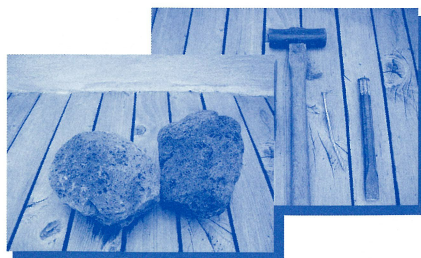
そこで今回は茶庭などで目にする関守石のイメージとグリーンを組み合わせ、夏風に葉がそよぎ、涼しさ溢れる新しい和の世界をご紹介します。

関守石とは？

茶庭や露地などで飛石の上に置き、通行止めの標識とする小石のことです。かつては千利休が玄関に関守の役として、壺や香炉を置いたことから始まったと言われています。現在では、石に棕櫚縄（シュロワ）や蕨縄（ワレワ）を十文字に結び、にぎりをつけて持ち運び出来るようにしたもの等が使用されています。

材料は？

軽石（植物を植えるため穴を彫り易い軽石を使用）・棕櫚縄・植物（今回はナミシノブとギンバリソウを使用）・用土（ケト土、赤玉土、短く切った水苔を配合）・苔（スゴケなど）《軽石を彫るには大きな釘やノミ・カナヅチ等があれば簡単に彫ることができます。》



作り方は？

まず、軽石を安定する方向に置き、植物を植え込む位置を決め、チョークなどで印を付けます。その後、植え込み部分の穴を少しずつ削ります。勢いよく彫り過ぎると下まで割れてしまうますので要注意！



そして、棕櫚縄で関守石と同じように十文字で結束します。（その際、植物を植えることを考え、植物の邪魔にならないよう十文字を作りましょう。）



棕櫚縄のあしらいが終われば、いざ植え込み開始です。



植物の配置を決め、予め用意しておいたケト土・赤玉土・水苔をよく混ぜあわせ、植物が落ちないようにしっかりと植え込みます。最後に足元に苔をはれば作業終了！ 仕上げをきれいにさせる

コツは、苔と植物、又は苔と軽石の隙間を空けずに細かくコケをはると意外ときれいに見えます。

吊り下げのようにして軽石の下に風鈴を付けてもよし、玄関先に置くのもよし、和風のお盆やお皿に載せて室内で飾るもよし（今回の植物では風通しのよい半日陰がお勧めです）。一日1回～2回、たっぷり霧吹きをしながら癒しの一時を感じてみましょう。夏の風に揺れるみずみずしい葉を見ると、なんとも涼しい雰囲気になります。

身近なロハス生活

あわただしく過ぎていく日々の生活に、ちょっと昔懐かしい和の世界。古きものと現代のスタイルを組み合わせ、植物の命を感じながら身近な癒しのアイテムとして取り入れてみてはいかがでしょうか。

2年ほど前からロハス（Lifestyle Of Health And Sustainability）というスローライフなライフスタイルが注目されています。『地球に優しく、心と体に優しく。決して義務として無理をするのではなく、少しずつ自然に生活へ取り入れる。』今回紹介したアイテムもロハスの第一歩になるのでは？

さあ、エアコンの温度を一度緩めて、まずは一鉢、植物と共に新たな生活をはじめませんか。